



国土交通省・自動物流道路検討会_ヒアリング資料

2024年5月14日

アサヒグループジャパン(株)
ロジスティクス戦略部

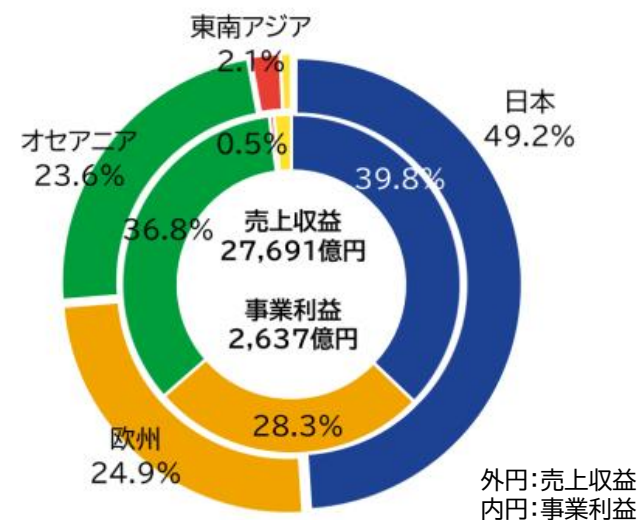
- 会社概要
- 物流フロー、生産・物流拠点、物流量 等
- 物流環境配慮の取り組み(全体像、事例)
- アサヒグループが目指したいこと
- 自動物流道路について(期待すること等)
- appendix(環境配慮の取り組み事例)

- ◆ 商号 **アサヒグループホールディングス株式会社**
- ◆ 設立 **昭和24年(1949年)9月1日**
- ◆ グループ従業員数 **28,724名(連結)**
- ◆ グループ会社数 **連結子会社:199社**
持分法適用関連会社:32社
- ◆ 売上収益 **27,691億円**

※2011年7月に、純粋持株会社化に伴い、「アサヒビール株式会社」より商号変更



(2023年・事業セグメント別実績)



Asahi Europe & International Ltd

< 欧州 >



Asahi Holdings (Australia) Pty Ltd

< オセアニア >



Asahi Holdings Southeast Asia Sdn. Bhd.

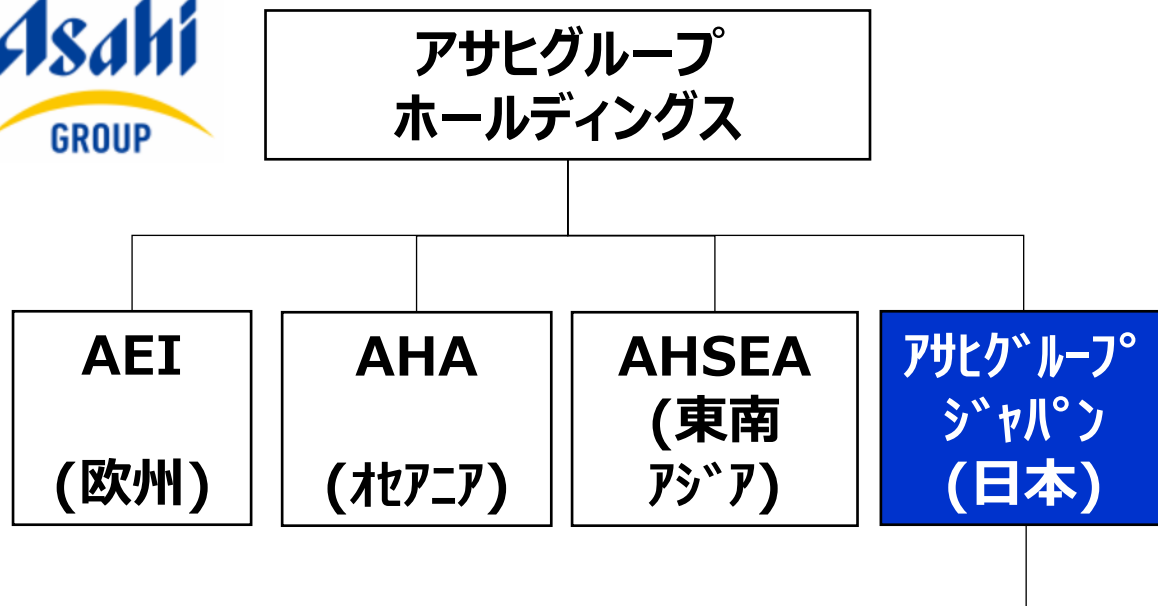
< 東南アジア >



アサヒグループジャパン

< 日本 >
2022年1月~





〔アサヒグループジャパンの役割〕

- One Asahiでの全体最適の追求
- 共通機能の集約による徹底効率化
- 事業会社単独ではやりにくい事業横断での成長、コスト、サステナビリティの取組の推進
- 事業会社での取組の支援、加速
- 他リージョンとのベストプラクティスの共有、協業
- アサヒロジ社等機能会社の管理

主要な連結会社

(酒類事業)

- アサヒビール
- ニッカウヰスキー
- エノテカ
- アサヒドラフトマーケティング
- アサヒビールモルト
- アサヒビールフィード

(飲料事業)

- アサヒ飲料
- カルピス

(食品事業)

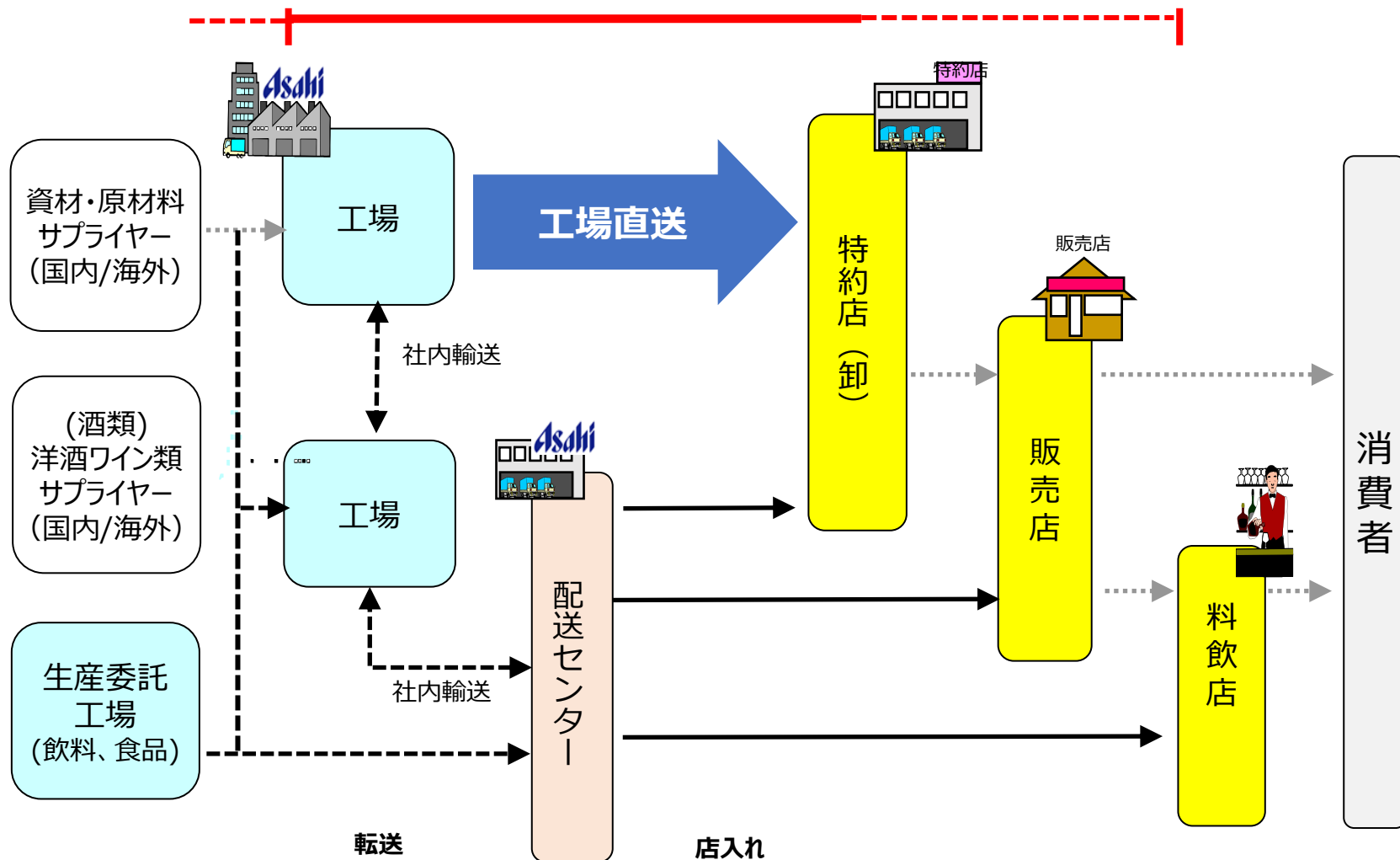
- アサヒグループ食品

(その他)

- アサヒロジ
- エービーカーゴ東日本
- エービーカーゴ西日本
- アサヒユウアス
- アサヒフードクリエイト
- なだ万

物流関連会社

アサヒグループ(メーカー)の物流領域



生産・物流拠点数	自社工場	委託工場	物流拠点
酒類(ビール類)	6	—	24
(洋酒等)	7	—	6
飲料	7	40	45
食品	7	80	10
その他	3	—	—

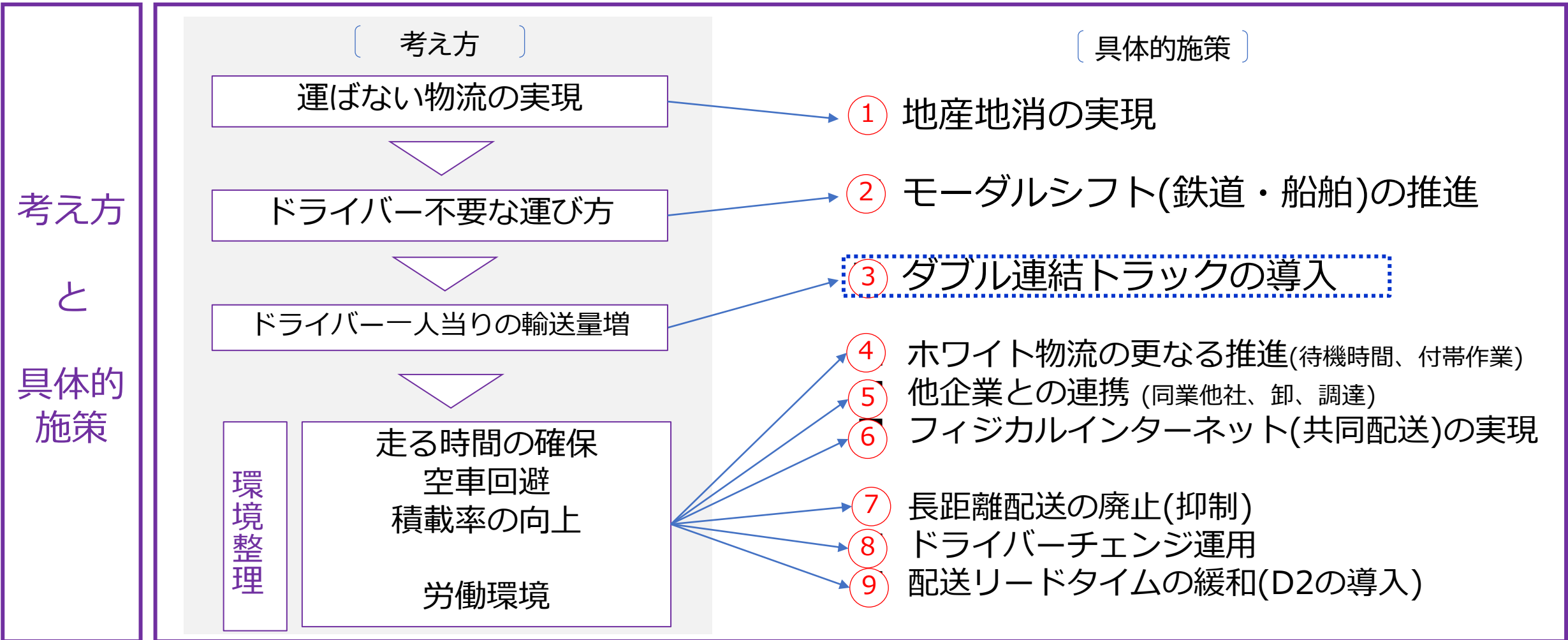
その他 = アサヒビール×2、アサヒサイカレ×1
 物流拠点 = 酒類、飲料、食品で一部重複カウント(同居)あり

トラック台数(グループ計)	店入れ	転送	合計
台数/日	1,890	1,230	3,120

物流環境配慮への取り組み(全体像)

目指す姿

ドライバーファーストで運送効率の向上を目指す **選ばれる荷主に!**
実走率(走る時間の確保) × **実車率**(空車回避) × **積載率**(より多くの荷物を積む)



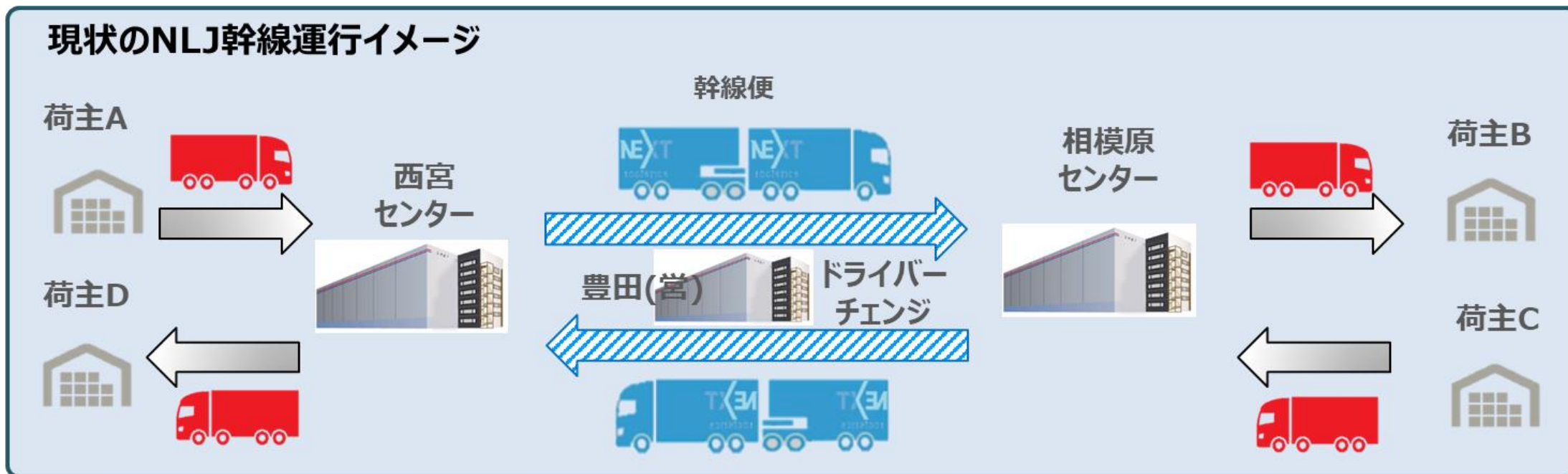
③ダブル連結トラックの導入

25mダブル連結トラック(フルトレーラー)による関東⇔関西間の幹線輸送

- ・ 関東発：AB 1台/日（ニッカ柏工場～吹田物流センター）
 ASD 3台/日（群馬エリア～明石工場）
 AGS 1～3台/日（関東各地～西日本配送センター）
- ・ 関西発：AB 1台/日（吹田物流センター～茨城物流センター）
 ASD 3台/日（明石エリア～群馬DC・埼玉狭山DC・厚木DC）



Next Logistics Japan社(NLJ)に出資し、ダブル連結トラックを活用（パートナー企業として参画）



燃料電池大型トラックの実証実験を昨年より開始

- ・物流業務におけるCO2排出量削減に向け、水素燃料活用の可能性を検証
- ・国内商用車全体のCO2排出量の約7割を占める*1大型トラック領域におけるCO2排出削減を目指す

*1: 車両総重量3.5t超のトラック・バス、日野調べ（2020年9月末現在）

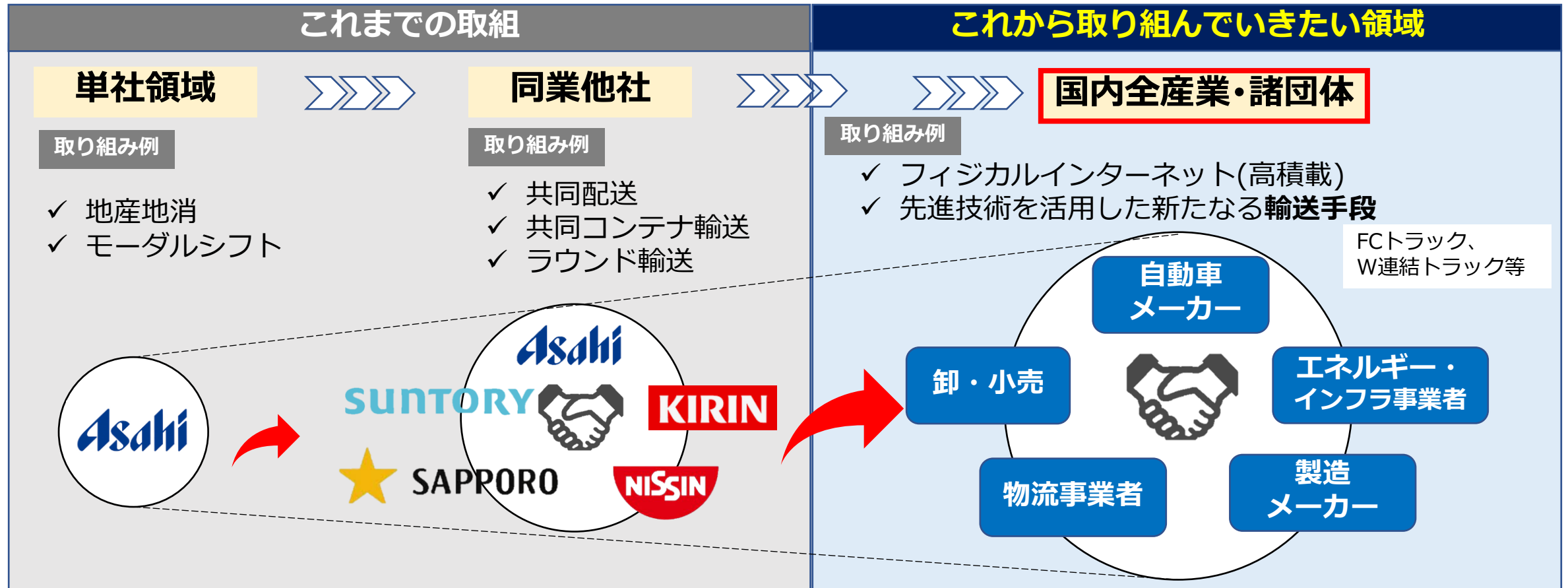
協力企業：アサヒグループジャパン株式会社、西濃運輸株式会社、NEXT Logistics Japan株式会社、ヤマト運輸株式会社、トヨタ自動車株式会社、日野自動車株式会社



アサヒグループが目指したいこと＝期待すること

CO2排出量低減のため、物流効率化のために、アサヒグループは、単社でやれることからスタートし、同業他社との協業領域を拡大してきました。直近では、自動車メーカーさまや物流事業者の方々とも連携を図り、更なる環境負荷軽減取組を推進してきております。

自動物流道路等、先進技術を活用した社会インフラ構築についても、弊社としては微力ながらご協力させていただきたいと考えております。





期待したいこと

配慮頂きたい事項

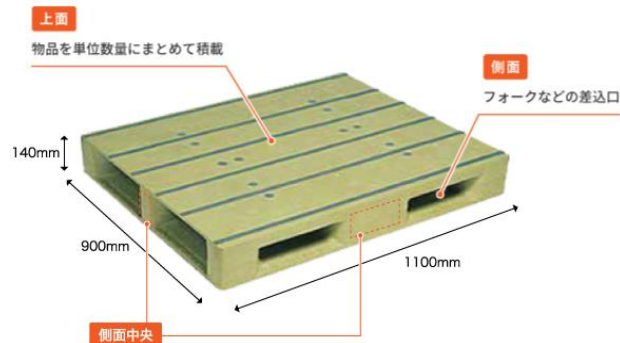
ドライバー不要な輸送手段として
工場間輸送等にて活用させて頂きたい

- ✓ 重量物であっても輸送可能な設計にして頂きたい
- ✓ T9型パレット(1,100mm×900mm)も使用できる設計にして頂きたい

※1パレット当りの重量:700kg~750kg
高さ: 1.2m~1.5m



ビール9型プラスチックパレット



共通ルールとして、パレット側面に下記の記載が印字されております。
「〇〇株式会社 所有」(※注:会員企業名)
「譲渡・無断使用一切禁止」
「一般社団法人 P/Pレ共同使用会 管理」
※但し、2013年以前に投入されたパレットは上記の記載がない場合があります。



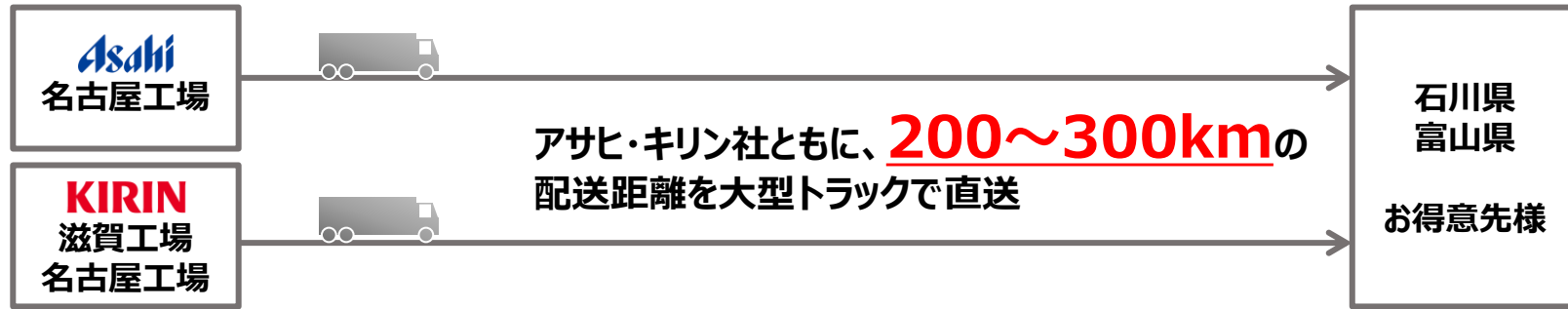
appendix

⑤他企業との連携(北陸地区・モーダルシフト&共同配送)

ドライバー不足という社会的課題に対して、アサヒと麒麟社が協働し長距離トラック輸送を削減
北陸向けの生産体制を変更することで、鉄道コンテナの利用を促進

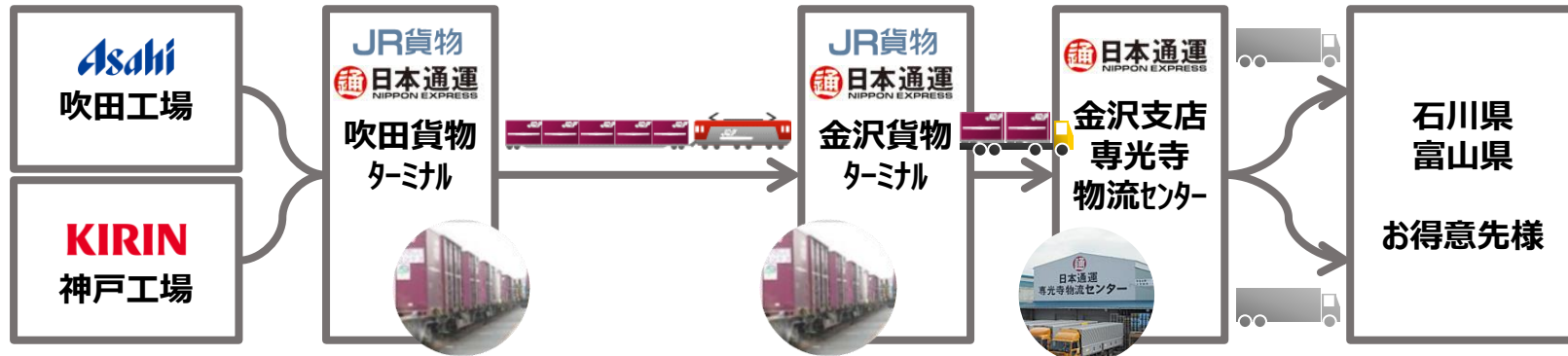
【規模・効果】年間1万台のトラック輸送を鉄道に振替え + CO2削減2700トン

<Before>



<After (2017年1月~) >

アサヒ・麒麟社の主な供給工場を関西エリアへ変更し、配送センター開設及び鉄道コンテナによる
在庫補充によって、**安定的な物流体制構築と環境負荷低減を両立**する。



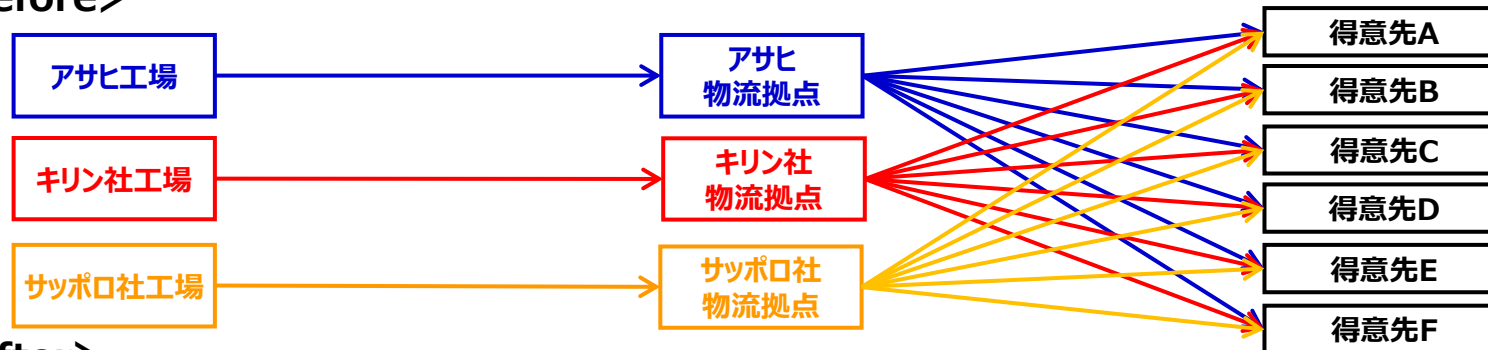
⑤他企業との連携(首都圏地区・共同配送)

アサヒ、麒麟社の2社で2011年から実施 その後2015年にサッポロ社がスキームに加入
 首都圏の各社が保有している配送センターを相互利用し、配送エリアを共同化

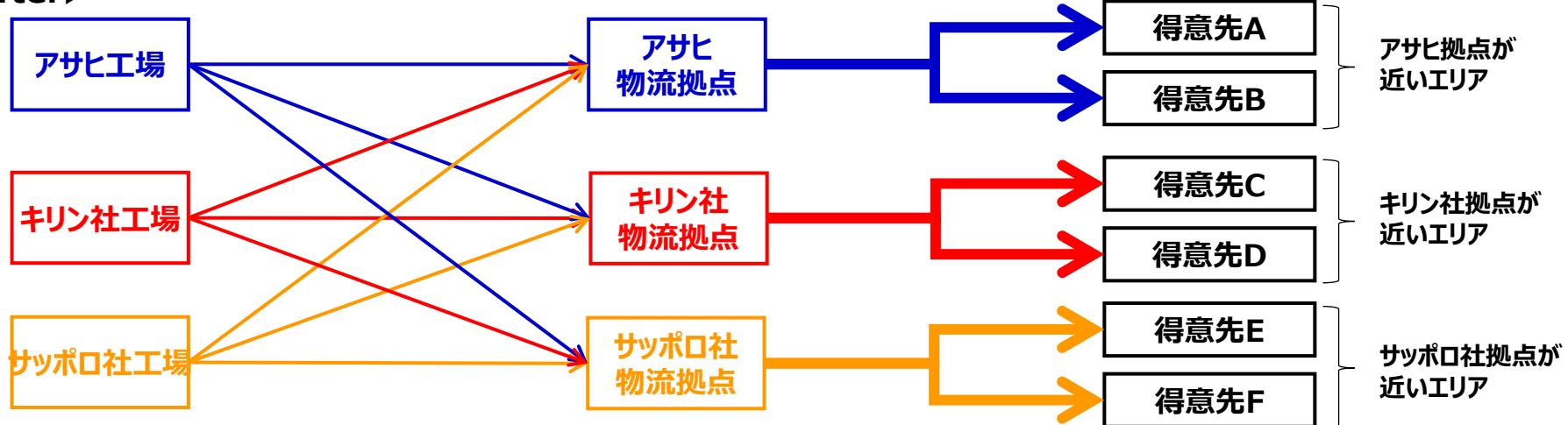
【規模・効果】 配送距離短縮、積載率向上(約25%増)、CO2削減(約137トン▲18%)

納品の対象得意先(卸、業務用酒販店様) 都内約1900店

<Before>



<After>



⑤他企業との連携(日清食品社との重軽混載輸送)

日清食品社と重軽混載で共同船舶輸送を実施

- ・重量貨物である飲料製品と軽量貨物である即席麺製品を混載し、積載率を最大化 車両台数20%削減
- ・関東～九州間を船舶輸送(週1～2便)にすることでCO2削減

輸送スキーム



積載方法



End Of File